

別紙2

普及活動に関する令和5年度有識者会議結果報告書

1 実施日時

令和6年2月2日（金） 14時30分から16時30分

2 有識者会議の構成

区分	人数
学識経験者	1人
中小企業診断士	1人
農業者	1人
農業団体職員	1人
合計	4人

※当初6人を予定していたが、体調不良等により2名欠席。

3 普及活動に対する主な意見

普及活動に関する令和5年度有識者会議は、加須農林振興センター、春日部農林振興センターが取り組んだ普及活動について意見交換を行った。

普及活動に対する主な意見は次のとおりであった。

(1) 加須農林振興センター

課題名：県育成新品種「べにたま」の産地導入支援

ア 評価できる点

- ・新品種育成と品種特性の把握は、課題決定のプロセスとして評価できる。
- ・昨今の農業情勢のトレンドをとらえた課題設定である。
- ・2農家から8農家への普及は評価できる。
- ・生産対策だけでなく、販売面まで一貫した取組となっている。
- ・限られた面積の中で最大限の収入を上げ、手取りの増加につながっている。
- ・評価の高い県育成品種の導入支援は、産地の活性化のみならず県内他産地への波及につながるものであり、適切な課題設定である。
- ・生産者や農林振興センター、農協、農業技術研究センターが連携をとり、一体となって取り組んでいることは評価できる。

イ 今後の普及活動への改善点や方向性への提言

- ・ 今後は、栽培参画する農家の増加や他農家への普及、設備投資の導入や育苗管理などの取組が重要になると思う。県民が認知できるような技術的取組や補助事業があると良い。
- ・ メディア活用やブランド力向上が今後の課題になると思う。SNS などソーシャルメディアを利用し、「埼玉いちご県」となるようなブランド育成、長続きするブームを目指してもらいたい。
- ・ 地域一体となった取組は、今後も続けてもらいたい。
- ・ 今後も、作付面積の拡大や技術対策だけでなく、販売戦略（販売先、PR、価格等）も重要であり一体的にすすめる必要がある。
- ・ 栽培面積の増加、農家所得の増加といった具体的な数値の目標設定がほしい。
- ・ 生産量が需要に追い付いていない課題がある。県全体の取組として、栽培面積を増やすような取組があるといい。
- ・ 今回の成果をデジタル化、見える化することで、地域内の他生産者や新規就農者などに導入できるようにしてほしい。

(2) 春日部農林振興センター

課題名：なし品種「彩玉」の生産技術の向上

ア 評価できる点

- ・ 高齢化、高温による品質悪化による農家の耕作意欲の低下を防ぐという面で、改植、新植の取組は重要だと思う。
- ・ 摘果ゲージといったアナログではあるが、わかりやすい材料を活用する点は、高齢化が進んでいる生産者にとって取り組みやすく評価できる。
- ・ 新植・改植の転換と収穫基準の設定は一定の評価ができる。
- ・ 近年の異常気象や消費者ニーズの変化への対応は、農家の所得確保において重要であり、課題選定は適切である。

イ 今後の普及活動への改善点や方向性への提言

- ・ 新植、改植のスケジュールと収益、栽培計画だけでなく、農業者の納得や取組につながるデータの活用があるとよい。
- ・ 若手農家の育成や新規栽培者を増加させる動きにつながるとよい。
- ・ 消費者と近い埼玉農業の特徴を生かした、地域貢献にもつながる取組になると

よい。

- 改植、新植は、設備投資であり資金繰りとも連動するテーマ。他地域でも同様の課題があると思うので、他地域へも横展開することを期待する。
- 改植、新植を進めるにあたって、可能な限り金銭的メリットも分かり易く説明することが重要。改植に対する何らかの支援措置があればより効果的かと思う。
- 活動にあたって、市場出荷や直売所など販売面で重要な役割を果たすJAと導入品種の選定や規格等について十分な意見交換を行うべき。
- 課題はあるもののジョイント栽培や現時点对応機器が少ないがスマート農業などの省力化対策などにも取り組んでもらいたい。